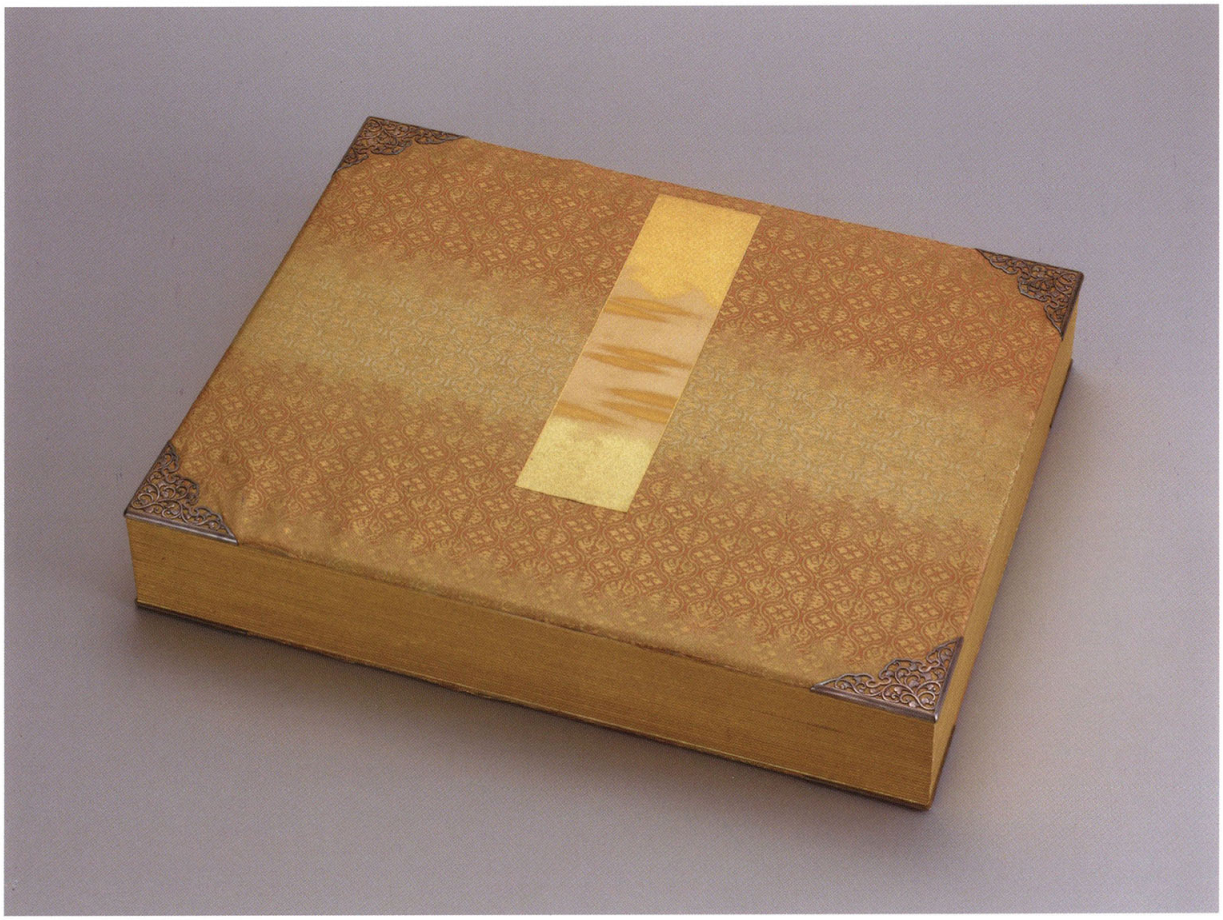

9　秋田名勝画帖

平福百穂筆
昭和三年（一九二八）
紙本着色
本紙各三三・六×四四・二
総四二・八×五三・四×九・三

一帖

大礼奉祝の為、昭和三年に秋田市より献上された画帖。画帖の揮毫を依頼されたのは、秋田県角館出身の画家平福百穂（一八七七～一九三三）であった。

表紙の裂は、中央に向かって濃い紅から白へと段染めされた地に、鳥・蝶文と菱花文を立涌の中に交互に表した可憐な文様である。その上に金砂子による霞模様の題箋と唐草文様の飾り金具が付されている。画帖には目録が付属し、「獻上／一　秋田名勝畫帖　拾二圖　壹冊／秋田縣人平福貞蔵號百穂謹畫／以上／昭和三年十二月吉日／秋田縣秋田市長勲四等井上廣居」としたためられている。

制作を依頼された百穂は、秋田に赴き各地を写生をしてまわり、秋田の名所旧跡十二景を一冊の画帖にまとめた。その全十二図の絵には、春から秋にかけて移り変わってゆく秋田の雄大な自然とそこに生きる人々の営みが、昭和期以降の百穂の作品に特徴的な墨のにじみと擦れをいかした筆遣いで表現されており、故郷に対する百穂の暖かなまなざしが感じられる。

第一図「千秋公園と太平山」は、前景の桜にはごく淡いピンク色を施し、その奥の池と遠景の太平山は青く、池を泳ぐ鯉の赤色が華やかさを加えている。すべて控えめながら、春の柔らかな光の中に浮かぶ風景が見事に表現されている。第五図「男鹿半島」は、荒れる波の描線を細筆で描き、その向こうに見える男鹿半島は淡墨をにじませた上に擦れた筆を重ね、激しい波の浸食で出来上がった奇岩の迫力ある姿を表す。第六図「奈曽の白滝」しぶきをあげて落ちる滝は白く、その下は深い藍色に沈む。他の図に比べても彩色が豊かで、夏の強い日差しに浮かび上がる鮮やかな木々の緑が表現されている。第十二図「平鹿の美田」は、稲を収穫する農夫が描かれ、前景にはその稲が干され、後景には鳥海山がそびえる。人々の営みと自然の雄大さが混ざり合う、秋田の魅力的風景が描き出されている。

また、詳しい刊行年は不明であるが、百穂没後に『百穂遺芳（秋田十二景）』と題した本画帖の記念図録が発行された。

① 千秋公園と太平山

⑤ 男鹿半島

⑥　奈曽の白滝

⑫　平鹿の美田

③　旧雄物川河口

②　仁別の美林

⑦　象潟

④　八郎潟

⑨　十和田湖

⑧　渓后坂

⑪　田沢湖

⑩　後三年

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

ひろげる、たのしむ、小粋な日本画――近代画帖の美

三の丸尚蔵館展覧会図録№55

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成二十三年七月二十三日発行

© 2011, The Museum of the Imperial Collections